

廃棄物減量等推進審議会会議 会議結果

会議名	第2回木津川市廃棄物減量等推進審議会		
日時	令和元年12月18日(水)午前10時から	場所	木津川市役所 第2北別館 2階
出席者	委員 ■…出席 □…欠席	■橋本委員(会長)、■浅利委員(副会長)、■須内委員、□関河委員、 ■中川委員、■石田委員、□木下委員、■中尾委員、□中島委員、■福西委員 ■山本委員、■新井委員、■可知委員、■岩木委員、■中岡委員、■内村委員	
	その他出席者	傍聴人:3人	
	庶務	市民部 滋井部長、山本次長 まち美化推進課 高味課長、中島係長、櫻井主事	
議題	1 開会		
	2 議事	(1)審議事項 ①新たな財源活用事業のアイデアについて ②表彰案件の審査について	
		(2)報告事項 ①各部会の開催結果について ②令和元年度可燃ごみ組成調査の結果について ③財源活用事業の進捗と活動指標の状況について	
	3 その他		
	4 閉会		

会議経過	会長	<p>定刻となりましたので、ただ今から、第2回木津川市廃棄物減量等推進審議会を開催します。</p> <p>5月の第1回審議会以降、推進部会・評価部会それぞれで活動してまいりましたが、本日は、全体の審議会として本年度を総括する審議となります。ご出席の委員におかれましては、円滑な議事進行にご協力を願いいたします。</p> <p>本日は、委員16名中過半数を超える12名にご出席をいただいておりますので、会議は有効に成立しております。</p> <p>次に、議事録署名員につきましては、会長・副会長を除いて名簿順に指名したいと思いますが、中島委員が来られていないため福西委員にお願いいたします。</p> <p>さっそく議事に入りたいと思いますが、携帯電話をお持ちの委員や傍聴の皆様におかれましては、電源をお切りいただくか、マナーモードに切り替えていただきますようお願いいたします。</p> <p>また、傍聴の皆様におかれましては、会議中の私語や拍手などの行為につきましては禁止となっておりますので、ご協力を願いいたします。</p> <p>それでは、資料の確認をいただいて、議事の1点目、新たな財源活用事業のアイデアについて、説明をお願いします。</p>
	中島係長	事務局説明省略（新たな財源活用事業のアイデアについて）
	山本次長	<p>委員から事前に提案があった事業について、1点補足説明をさせていただきます。提案では、「焼却施設助燃費用の低減が図れると共に」とお書きいただいております。この提案されている事業そのものを否定するものではございませんけれども、現在、環境の森センター・きづがわでは、この剪定枝・草刈りごみを入れることによって助燃剤を使っているということはないという状況でございます。まれに、全体的なごみ質の状況によりまして温度が下がった場合に助燃剤を使用することはございますが、剪定枝・草刈りごみによって助燃剤を使う、いわゆる灯油を使うということは、現状においてもございません。また、環境の森センター・きづがわにつきましては、剪定枝・草ごみはバイオマスという位置付けもしておりますので、このことによって直接CO<sub>2</sub>の抑制に繋がるというような認識は持っていないというところで、少しご提案いただいているところと認識の違いがあるということを申し上げておきたいと思います。</p> <p>次に、市民等から問合せや要望があった事業「電気式生ごみ処理容器購入補助金」の関係でございますが、中島の方から説明があった通りでございまして、これまで木津川市におきましては、電気式の生ごみ処理容器購入を補助することにしておりましてけれども、先ほどありましたように、電気式といいますのは電気を使って、ということになります。現状でどれくらいのCO<sub>2</sub>が発生するのかを現在の関西電力のCO<sub>2</sub>排出量の数値から換算いたしますと、1日2時間使用したとして年間で116t～150t程度のCO<sub>2</sub>が発生するのではないかということでございます。これを木に換算いたしますと、杉8本～11本程度。また、</p>

	<p>杉 1 本あたりの CO<sub>2</sub> 吸収量から言いますと、1 本あたり 0.25t と換算されます。1 年間電気式生ごみ処理容器を利用すると、先ほど申し上げました 8 本～11 本程度の杉を伐採していることに相当するということでございまして、議会の方からも電気式生ごみ処理容器購入補助金は復活しないのかという一般質問等もいただいておりますけれども、この審議会の経過に基づきましてバイオ式のものに変更したということで議会の方におきましても説明をさせていただいたということでございます。</p>
会長	<p>それでは、本件は現在進めている 13 事業に加えて新たに事業として行うものとして提案するということになりますので、一つずつ議論させていただければと思います。まず最初の委員から提案のあった事業につきましては、中尾委員のご提案と伺っておりますけれども、もし補足等がありましたらお願ひします。</p>
中尾委員	<p>私がこれを提案させていただいたのは、環境の森センター・きづがわの見学からです。この審議会、それから奈良環境カウンセラー協会からの見学要望その他ありまして、複数回ピットに投入しているところを見ましたら、剪定枝それから刈草の青々としたのがかなり印象に残ったんです。それで、数値的に根拠があってこの提案をさせていただいたわけではないんですけど、やはりこれだけ大量に青草・剪定枝が入るということは、必ず燃焼効率の方に影響を及ぼしていると。それで市の方へお願ひしたいのは、搬入されたごみは必ず記録を録っておられると思うので、委託業者も常駐しているそうですから、その記録の中から刈草・剪定枝等の量がこれまでどれくらいあったのか、今までこれだけ搬入されたもので燃焼効率が何パーセントぐらい低下しているのか、ということを調べていただく。青草は水をかけながら燃やしているのと同じことなので、影響は全くないことはないと思うんですね。剪定枝・草刈りゴミ等の堆肥化事業設立委員会の設置ということで看板は出していますけれども、ここに至るまでやはりちゃんと数値の上でどれくらい影響が出ているかというのを出してから、時間をかけて設立委員会を設置する討議の中でそういう数値的な裏付けの基にすべきだと思いますので、まずは開所以来どれくらいの剪定枝・草刈りごみで効率低下が起こっているかというのを調べていただきたいなというのが第一段階です。</p>
山本次長	<p>平成 30 年度と今年度の状況でございますけれども、事業系の部分につきましては 5,400t～6,000t までの間で年間推移しております。その中で草・剪定枝につきましては昨年度は 1,000t でした。今年度は若干増えておりまして既に 1,250t ほどになっておりますので、事業系のごみ全体から言いますと大体 20% 前後が草・剪定枝というところでございます。今、中尾委員から話がありましたように、草・剪定枝は非常に青いものも入ってきております。施設といたしましては、十分乾燥した上で持ち込むようにということで申し上げておりますけれども、現場の状況によっては青いまま持ち込まれている状況もございます。</p>

	<p>その中で、ごみピットが非常に大きいピットでございますので、ピットの中で乾燥もさせながら投入をしているということでございます。燃焼効率といいましては、その月々によってのごみ質にもよりますので、その影響がどの程度あるのかというのはなかなか把握をするのは難しいと思いますけれども、刈り草等によって著しく燃焼効率が落ちて助燃剤を使っているというようなことはないというところでございます。</p>
中尾委員	<p>助燃剤を使ってないということには納得しました。この焼却炉自体がプラスチックごみを助燃剤の代わりにするということで、その効果も出ていると思います。ただ、青草・剪定枝をピットの中で乾燥して水分除去ができたというのは、計量または推定をするのが、薪ですと水分含有計というのがあって薪の表面に押し当てる瞬時にわかるんですけど、当焼却場の中において、どれだけピットの中での乾燥効果が出てるかというデータ等を個人的に見たいなということです。青草等の燃焼効率低下の件に関しては、長々と言っていたらご迷惑をかけますのでこの辺にしておきたいと思います。</p>
	<p>あと将来の課題として、運営は市民団体に委託ということで事業の概要のところに文言を入れておりますけれども、リサイクル研修ステーションが廃止になって、色々な環境市民グループ、団体等の横のつながりに影響が出ていると思います。実際どういう声が出ているかというところまで意見集約して文章には挙げてないんですけども、城陽市では環境パートナーシップ会議という環境の民間グループ団体が歴史もあってすごく活発な動きをしていますし、精華町においても環境ネットワーク会議というのがありまして、ここからマイクロプラスチック汚染の講演依頼を受けたりして、城陽市と精華町は非常に活発にやっています。当木津川市におきましては、そういう横との連携というのがございませんので、やはり市民が自覚して、循環型の社会にもっていく意識を高めていくためには、何らかの事業を起こしてその運営は市民団体に任せると。くるっとさんがそれを担って今までやってきてはおられますけれども、やはり次の世代につないでいくために新しい取り組みを何らかの機会を設けてすべきだということで、燃焼効率に関しての数値的なチェックと併せて、市民団体への委託ということで、ネットワーク、グループ化がきちんと木津川市でも欲しいものだなとかねてから思っております。</p>
会長	<p>ありがとうございます。今回、事業の設立委員会の設置という形のご提案になっていますよね。そこをどのように取り扱うかということがあるかなと思います。事業を行うにあたっての準備を検討するようなもの、というイメージかなと思ったのですが。</p>
中尾委員	そういうことです。
会長	ですので、それを設置する方向で審議会として推進するのか、しなくてもい

	いということなのか、そういう議論になるかと思います。
中島係長	まずはこちらの審議会といたしまして、剪定枝・刈り草含め、こういったものの堆肥化について、市としてしっかりと検討しなさいという方向性をお示しいただけるのであれば、その方向性に基づいて、市としてどういった方法で可能なのか、どういったメリットがあるのかといったところを調査・研究させていただきまして、来年度の審議会の方へ具体的な事業として挙げていくというようなことは可能かなと思います。そもそも「この財源を使って刈り草・剪定枝等の堆肥化に取り組まなくていい」ということになるのか、「方向性としては必要なことだから、検討を進めて、ぜひ具体化してください」ということになるのか、本日はまずはそこまでご決定をいただいて、この豊中市の事例も含めて市として研究を進めさせていただいた上で、改めて具体的な事業としてご提案をさせていただくのがよろしいかと思うのですが、いかがでしょうか。
会長	私もそういうことかなと思います。検討のポイントで、具体的な実施方法をどこまで盛り込むか、公設・民営のメリットとデメリット、というような詳細なところまでお書きいただいているんですが、今回はそういうことを行うことを検討するかという観点から、皆さんのご意見を伺えればと思いますが、いかがでしょうか。
中島係長	先ほどの中尾委員からのご指摘というのは主に事業系の刈り草についてのご意見が大きかったのかなと思うんですが、やはりご家庭からも剪定枝・刈り草というのは出てきておりますし、それは組成調査でも明らかになっておりますので、市としても、家庭のごみの減量を図るという観点からもこういった剪定枝・刈り草等の堆肥化というのは一定の効果が見込めるのかなと考えております。そういう点も含めて、財源活用事業のアイデアとして検討を進めていくべきであるということでありましたら、こちらの方はしっかりと受け止めさせていただこうと思います。
副会長	しばらく出席が叶わなかったので、もしかしてついていけていなかったら申し訳ないのですが、もう一回全体像を確認したいんですが、この後にある資料ー5のところに「財源活用事業の進捗と活動指標の状況」ということで、これが今現在されているもので、次年度以降これにメニューとして加える候補を今議論しているということでしょうか。

本来はこの資料ー5にも費用とか、まあなかなか効果というのは難しいかも知れませんがそういうものがあったりとか、この後ご紹介いただくごみの組成でどのごみを減らせるかとかですね、そういう総合的な議論も必要なのかなという気もしましたので、議論の順番として資料ー1はむしろ最後にしてもいいのかなという印象を受けました。この後の「優れたごみ減量アイデア」も一つの事業のアイデアにつながる部分もあるのかなという気もしましたので、全体

	<p>の話になりますけれども、もう一度後で議論するというのもあるのかなと思います。</p>
中尾委員	<p>今仰っていただいた通りでいいです。私はこの事業①をどこまで方向性を付けて、今日結論を出してほしいということではございません。色々な資料・数値が整ってから次年度に受け継いでいくということを検討していただければ十分だと思います。ですから、市民の関心の高いところですから、こちらの方よりも事業②から⑤までの審議に移っていただければ幸いだと思っております。</p>
会長	<p>副会長から提案がありましたが、今日の次第とは逆になるのですが、報告事項を先に行って現状をもう一度理解した上で、新しいアイデアについて議論するということにした方が確かにいいような気がします。一旦、ここで審議を止めて、後で戻ってくるという形でよろしいでしょうか。</p> <p>では、順番を逆にさせていただいて、報告事項を先にしていただいて、現状をもう一度共有させていただければと思います。</p>
須内委員	<p>一つだけ確認したいのですが、今の事業①なんんですけど、剪定枝・草刈りごみと廃棄野菜・果実と入ってますけれども、家庭から出る野菜・果実よりも事業系から出る方がはるかに多いはずなんですよ。今現在、木津川市にスーパーが11軒ありますけれども、政府の指導もありますので今どうやって減量化するかということを色々考えている。そうすると、この堆肥化の中の重要な成分がもし大幅に減った場合、この堆肥の性質が有効なのかどうかというのがあるんですよ。要するに実際使えるのかどうか。もしこれが使えなくて、ごみがどんどん減ってくると、収益というのがまず出ないと思うんですよね。市が土地を用意するとなったらその土地代はどうするのかということもあるし、設備代はどうするのか、焼却しないといけないかも分からぬから。そうすると事業として非常に成り立ちにくい傾向にある。収益を上げるとなると、大体皆さん失敗するんですね。こちらの焼却炉はまだ新しくて人口が増えています。他所の都心部の焼却炉というのは人口が減ってきてるので、ごみの量も減ってきているんです。そうするとごみが無くて焼却炉が上手く動かないとなるので、他所から集めてくるという現象が起きているんですね。</p>
会長	<p>もう一つ。この剪定のものは、この間清掃会社に見学に行きましたけど、木材のものはあそこのチップとかにしているんですね。そうすると、そういうものを焼却炉に持っていくと、バイオマスボイラーで逆に奨励されているんですね。だから、チップ化した方が良いんじゃないかなというのが私の考え方です。</p>
	<p>その点も含めて後ほど議論させていただければと思います。</p> <p>報告事項①各部会の開催結果ということで、資料-3の説明を事務局からお願いします。</p>

	中島係長	事務局説明省略（各部会の開催結果について）
	会長	それでは、推進部会の中尾部会長、それから評価部会の中川部会長から補足等ありましたらお願ひいたします。
	中尾委員	今回の申請は全て採択されましたけれども、評価の点数が非常に低いなと思いました。次年度からはまた新たな当審議会の委員が決まると思うんですけども、やはり採点のやり方等を事前によく理解した上で採点をすべきだと思います。それから採点の方法によりましても、小学校・中学校・高校では通信簿に1～5まで付けてますけれども、これを出すにあたりましては調整点というのを入れています。実際の試験の点数は低かったのだけど、日頃の色々な面で努力しているから5点あげようとか、10点あげようとか、そういう調整点を付けるわけですね。ですから、次年度に出された案件に対しての審査にも、その時その場での評価得点だけじゃなくて、出されたグループの過去の年数とか実績とか、そういうものもある程度評価に入れた調整点を入れて、やはり1件ぐらい80点以上取れるグループが出てほしいと思うんです。我々審議会の委員も勉強不足でしたので、次年度の審議会委員には審査をするにあたってある程度理解しておく必要があると思いますので、そういう運営の仕方を次年度は取り入れていただきたいなと思います。
	会長	ありがとうございます。続いて中川部会長、いかがでしょうか。
	中川委員	資料-3の一番最後のところに、大きな3番「今後にあたっての提言」という形で、大きな1番、2番に関わって追加で入れてあります。そのところは評価部会の時に出てきていたなかった、確認をしていなかった内容ですので、そこだけ特に評価部会の方は見ておいてほしいなと思います。 書いてあるように、今後にあたって、定期的に効果及び成果について審議会の方に報告をもらいたいということで追加をしてあります。
	会長	ありがとうございます。この件につきましてご意見等ございますでしょうか。今年度初めて行っておりますので、改善すべき点も既にお話をいただいているものもあるかと思います。来年度の開催においてそういったところを改善していくということでできればと思いますが、参加されて感じたことなど何かありますでしょうか。
	須内委員	評価部会について、事業番号1の防鳥用ネット無償貸与事業の後半に海洋プラスチックの問題が出てきているのですが、どういう関係があるんですか。
	中島係長	評価部会の方でご意見をいただいたのは、ごみをお出しいただいたごみ袋を

	<p>カラスやアライグマ等に荒らされてしまうと、プラスチックが散乱してしまいます。そういった時に雨が降ったり風で飛ばされたりということで、最終的には海にプラスチックごみが流れてついてしまうようなことにもなるので、そういった被害を防止するための防鳥用ネットというのは、長い目で見れば海洋プラスチック対策の一助にもなっている、そういった視点をご提供いただいたところです。</p>
会　　長	<p>来年度の運営の仕方につきましては、来年度第1回の審議会の中でまた改めて確認いただき、それぞれ推進部会と評価部会という形で開催させていただければと思いますので、引き続きよろしくお願ひいたします。</p> <p>それでは、報告事項②令和元年度可燃ごみ組成調査の結果について、資料-4の説明をお願いします。</p>
中島係長	事務局説明省略（令和元年度可燃ごみ組成調査の結果について）
会　　長	本件につきまして質問等ござりますでしょうか。
副 会 長	調査的なところも含めてお願ひしたいと思います。まず、資料-4の1枚目で、サンプル収集が今回160世帯ということだったんですが、人数の把握はされていないという理解でよろしいでしょうか。
中島係長	実際にサンプルを収集した世帯の具体的な人口というのは把握しておりません。市の平均的な1世帯あたりの人口から概ねの人口は推測することは可能かと思います。
副 会 長	<p>京都市で京都大学が40年間やっている調査では、調査時に簡単なヒアリング調査もしております人数も出しますので、その比較ができた方が良かったかなと思いました。それができない前提でコメントしておきますと、全体的な感想としては、増減率はもうちょっと減ってほしかったなというのが正直なところかなと思います。京都市の場合は、京都市民はすごくケチだということもあって有料指定袋で大体4割減ぐらい出てたので、それから考えると1割ちょっと減というのは、木津川市の市民の方々は裕福なのかなというところも感じました。</p> <p>2ページ目の袋のサイズなのですが、これも私も今は手元に正確な情報がないのですが、京都市も当初は40L前後のものが多かったのが、今は20Lとかそれより小さいものの方が使用割合が増えておりますので、そのあたりも今後呼びかけの時に、皆さんに減らしてもらう目安としてサイズダウンしていくというような呼びかけもあるのかなと思いましたので、参考にしていただければと思います。</p> <p>それから、今の結果で先ほどの最初の議論の、何を目指していかなければい</p>

	<p>けないのか、というのが見えてくるのかなと思います。ご指摘いただいたプラ、手つかず食品、生ごみ、そのあたりをどう対応していくのかのがポイントかなと思います。それとも若干関連するんですけども、ビニール・プラスチック容器包装は分別率が出せると思うんですが、それは計算されてますか。まだでしたら計算いただいて、ビニール・プラスチック容器包装にちゃんと分けているものを見ていただいて、分別率も一つの参考になると思います。他の都市と比較する意味でも、排出量自体もですけれども、どのくらい市民の方に分別いただいているのかということも含めて検証いただいたら、次につながるのかなと思います。参考にしていただければと思います。</p>
山本次長	<p>ごみ袋のサイズの関係なんですけれども、昨年度と今年度の販売の割合を見てみると、45Lの販売の実績が2ポイントほど下がってきているんです。僅かなんですけれども、45Lから30L、またその下の15Lへ移行してきてるというところもございますので、もう少し傾向を見ますと市民の皆様方のダウンサイジングの傾向が見えてくるのかなと思っております。今、7Lが一番小さい袋ですけれども、それよりも小さい袋が必要ではないかという話もございますので、今後、ごみ袋のサイズのことにつきましてはまた検討してまいりたいと思っているところでございます。</p> <p>それと、プラスチックの割合が非常に多くなったという印象もございますけれども、詳細には参考資料-1で付けておりますが、この中を見ますとゴム製品、革製品といったようなものも含まれております。ですので、全体的にプラスチックが増えているということではなく、例えば靴でありますとか鞄も可燃物として出せるようになっておりますので、そういうものも増えてきているということですので、もう少し詳細な分析も今後必要かなと思っているところでございます。</p>
中尾委員	<p>組成調査の中で分別率の調査ということが提示されたんですけど、私も組成調査の時に参加させていただいて、皆様方の2倍の時間残って色々と見させていただいたんですけど、やはり捨てられた現物を見ると、市民の分別作業の意識レベルアップがすごく大切だと痛感しましたので、この辺の取り組みも来年度の審議会の事項に取り入れていただいたらありがたいなと思いました。</p>
中島係長	<p>今、中尾委員から実際に拝見いただいた感想を教えていただいたのですが、プロジェクトを用いまして、当日の風景、また分別の結果を、数字だけでご覧いただいているのとまた印象も異なるかと思いますので、ご覧いただきたいと思います。</p>
	<p>事務局説明省略（可燃ごみ組成調査のようす）</p>
副会長	<p>一つだけすみません。皆さんに注意していただきたいんですけども、この写</p>

	<p>真の上にある野菜のほとんどが、ご自宅で収穫されたものだと思うんですね。これは京都市内ではまずほとんど見ることがない、どちらかと言うとこういう田畠をお持ちの地域だけなんですね。ここは数字を分けて考えられた方が良いのかなと思います。昔は畠に滲き込んでおられたものが、鳥獣害とかがあってこういうごみとして捨てられるという傾向があります。対策も変わってくるのかなと思いますので、そこは注意いただいた方が良いと思います。</p>
中島係長	<p>そうですね、今ご指摘いただいたように、不揃いなもの等もありますので、家庭菜園で穫り過ぎたものなども含まれていると思います。その辺りはまた、農政課とも協力をしながら対策を考えていきたいと思います。</p>
	<p>事務局説明省略（可燃ごみ組成調査のようす）</p>
会長	<p>実際に現場を見られた方は、色々なことが見えてきたのかなと思います。今回の組成調査の中でも、この果物や野菜は別で調査をされているんですか。データとして見る時に、確かに分けて見た方がいいかも知れません。</p>
副会長	<p>「手つかず食品」に含まれていると思うんですけど、形状で判断できるものは、目視でいいので別にしていただけたらと思います。</p>
会長	<p>次に進めさせていただきたいと思います。報告事項③財源活用事業の進捗と活動指標の状況について、資料-5の説明をお願いいたします。</p>
中島係長	<p>事務局説明省略（財源活用事業の進捗と活動指標の状況について）</p>
会長	<p>現在行われております13の事業につきまして進捗状況をご説明いただきました。また、古紙の集団回収事業につきまして、雑がみをターゲットにこの事業をやっているんですが計測が難しいというところもありまして、紙の商業使用も減っていますから、集団回収量が増えたからリサイクルが進んだというのもなかなか言いにくい面もあります。今回新たな指標として、組成調査に基づいて、可燃ごみの中に入ってくる雑がみが減っている、ということを指標にしてはどうかと考えています。この件について、いかがでしょうか。</p>
中尾委員	<p>資料-5の一覧表の中で1-①地域学習会（出前講座）、それから2-③ダンボールコンポスト講習会、それから3-③学校等における環境学習の実施校について、この時の講師は概ね職員の方がやっていると思いましたが、くるっとさんとか、そういう団体からも講師で出ている人はいるでしょうか。色々な啓発関係の講師は、職員の方を主体に木津川市内の民間の環境活動グループの中からも講師として活躍できるように、今もしていると思いますけど具体的にちょっと分からないので、また次年度にお願いしたいなと思います。</p>

	中島係長	ただ今の中尾委員からのご指摘でございますが、地域学習会につきましてはくるっと様と一緒に出向いている地域がございます。ダンボールコンポスト講習会につきましては、特定の民間の講師の方にご依頼をしておりまして、その方にこれまでからお願ひをしてきているところです。学校等における環境学習への支援につきましては、現状全ての学校について市の職員が出向いているところです。
	石田委員	くるっとの方から寄せていただいていますが、以前、リサイクル研修ステーションというのがあったのですが、今はその基点場所というのがなくなって、出前講座に東部交流会館や加茂町、山城町にも行っています。その時に、木津の特産物でエコバッグを作っています。エコバッグは襖紙から作るエコバッグなんですが、ものすごくブームになってきて、あちらの方からこちらの方から、色々な出前講座を受けています。1月11日だったと思いますが、今度はイオンでまた一日やらせていただきます。あっちこっち行くんですけども、その時に必ず、ごみのことをセットにして話をしてやっております。
	新井委員	雑がみの件について書いていただいているところなんんですけど、弊社の方でも集団回収で忙しくさせていただいている中で、雑がみ袋を見受けます。雑がみ袋を利用して雑がみを入れていただいているんですけど、その雑がみ袋には雑がみの分別の方法が記入してあります。非常に分かり易いと思うんですけど、何分その袋で出されている方が少なくて他の方は雑誌と一緒に出しているものですから、その分量を分別するのは我々としても非常に困難です。実際の量を雑がみだけ選別して、ということは現時点では難しいなと感じます。
	会長	このようなこともございまして、今回、組成調査に基づく指標に変更してはと思っております。
	中川委員	先に、資料-5の最後に付いている雑がみについての資料で、困難な理由の1番はそれですけど、2番の新たな活動指標の検討の中の具体的な数値で書いてある41.2gっていうのと32.9gとかいうのは、参考資料-1ではどこにありますか。
	中島係長	はい、組成調査項目として※印でその数値の下に記載しているんですが、組成調査項目の42番、43番、48番、50番、こちらを足し合わせた数値になっております。参考資料-1をご覧いただきますと、一番右端の列に整理番号ということで記載をさせていただいております。その項目の各年度の数値を合計をさせていただいているところです。
	中川委員	ということは、その合計がここに載っている数字ということですか。

	<p>はい、先ほど言おうかなと思ったら、次にということだったので終わってからと思っていたら、この最後のところで雑がみの集団回収量の把握が困難な理由についてというのが出てきたので付け加えます。今回の資料-3の方には出でていないですけど、実はこのことに関しては、評価部会の方で活動指標の比較ができないという話がありまして、先ほど新井委員の方からもありましたけど、混ざってしか計量できないというのは今更じゃなくて以前から分かる話じゃないのということで、評価部会の方ではこのことに関しては、私の方から、そういう先を見通して、行政の方で比較できるかできないかの確認をしてないというのはいかがなものかなということを言っておりました。今回全体の審議会の場でもそのことに関しては、付け加えというか言っておかないといけないかなということで。ただ、この間の評価部会の時の理由よりは、後ろに具体的なものが出てきています。それに関しては、審議会ということで出してくれているのだけれども、それを評価部会の時に既に、というか、それより前にやっぱり出しておかなきやならない話であろうなというふうに思います。ましてや審議会のメンバーに新井委員がおられるわけですから、よりその辺は話もし易いかなということも含めて。それから古紙回収等においてということであれば、それはそれで分かる話であろうと思います。それが一つ。</p> <p>それからもう一つが、評価部会の時はもっと詳細な資料を出してくれていて、審議会の時も重複するけど全体にまた話をしますということだったので、今日も出るだろうと思って前回の資料を持ってこなかつたんですが。そのつもりでいたら中身が割と集約されている資料で、時間の関係もあるからだとは思いますが。さっき借りて見てる中でちょっと気になるのがあるので、数字が前回と違うものがあると思うので、私が間違っていたら言ってください。今回の資料-4の1ページ目の大きな1の年度単位での比較のところですが、和暦を使うのが嫌いなものであれなんですかけれども、一昨年度は434.1gとなっていて、その次、前年度は404.8gとなっているんですけど、前回、評価部会の方で見た時は405.1gとなっているのですが、これが一つ。それから、資料-4の大きな2(1)調査の概要の中のサンプル収集量が約460kg。ところが、前回の時は480kgでした。</p>
会長	その辺の細かい話は、時間も限られているので。
中川委員	そういうことじやない。間違っている資料なら何が正しいのかということを訊こうとしてるんです。それって細かいどうのこうのじやないと思いますけど。
会長	前の資料は参考として出されているので、今回のものが確定版かと思います。
中島係長	中川委員、ご指摘ありがとうございます。まず、評価部会で出ていた平成30年度の405.1gという数字についてでございますが、評価部会で政策目標の平成30年度の目標とするべき目安の値として表示をしているものです。評価部会の

	<p>資料ー2の1ページ目に出でてくる数値かと思いますが、こちらは昨年の答申でもご確認いただきました各年度の政策目標の目標値としての数字でございまして、405.1g。この目標に対しまして、平成30年度の実績値は404.8gとなっております。この点は第1回審議会でもご報告をさせていただいております。</p> <p>次に組成調査のサンプル収集量の数値ですが、こちら、申し訳ございません。今、ご指摘いただいて検算をいたしましたが、本日お配りしております資料ー4の1ページ目に記載している数値が間違っております。木津・加茂・山城それぞれの内訳を足しますと480kgになりますと、委員ご指摘のように480kgが正しい数値でございます。訂正してお詫びさせていただきます。申し訳ございません。</p>
中川委員	<p>そういうところがあるんで、今回のが正しいですって会長は言ったけれども、今回のが間違っていたんで、そういう先入観みたいなもので捉えないでください。</p>
会長	<p>申し訳ございません。</p> <p>残りの20分で審議事項の審議を行います。先ほどの話で、審議事項②も審議事項①に関係するというご指摘がありましたので、審議事項②を先に審議して進めたいと思います。審議事項②表彰案件の審査について、事務局からお願ひします。</p>
櫻井主事	事務局説明省略（表彰案件の審査について）
会長	<p>3点程度を表彰していくことで、今最大5点でご提案いただいているが、いかがでしょうか。同率1位が3点ということで3点がいいかと思いまが、賛成いただける方は挙手をお願いいたします。[挙手確認]</p> <p>ありがとうございます。では、同率4票をとった3点ということで、報告いただければと思います。</p> <p>私自身は④ー12のようなちょっと面白い感じのものがあつてもいいかなと思いますけども、集約する過程の中で割と一般的な表現に直されているという面もあるかと思うんですけども、インタビューに行かれたときにそこからキャッチフレーズ的なものを見つけられて発信された方が手に取られるかなと思います。</p>
中島係長	<p>ただ今選定いただきましたものにつきましては、今後は広く市民等へ普及を図っていきたいのですが、それにあたりましては今提出いただいている応募用紙の情報だけではなくて、実際にご応募いただいた方の家庭へ取材にお伺いさせていただきまして、実践されている風景であるとか楽しく取り組んでいただいている声を上手く届けて、「わが家でもやってみようか」と思っていただけるような、そういった内容で伝えていきたいと思っておりますので、本日の結</p>

		果はそのように活用させていただきたいと思います。
会長		<p>よろしくお願ひいたします。</p> <p>ちょっと時間をオーバーする可能性が高いんですが、申し訳ありません。審議事項①新たな財源活用事業のアイデアについてに戻りたいと思います。</p> <p>資料一1の一つ目の堆肥化事業設立委員会に関しては、須内委員からチップ化のようなものも含めて、という案をご提案をいただきました。先ほどの組成調査の結果でも5%くらいがこれに相当するもので、家庭でも同じくらいのオーダーかなと思います。なので、最大で2,000t～4,000tくらいの量が出ると思います。方向性としては、検討に値するんじゃないかなと個人的には思ってるんですけども、これについて皆さんのご意見はいかがでしょうか。堆肥化だけではなくてチップ化のようなものも含めて検討するということで、やってみてあまり意味がないとか事業的に無駄だとか、そういうことであればその時に判断するということになります。事業の検討を進めていくという案でよろしければ挙手をお願いしたいと思います。〔挙手確認〕</p> <p>それでは、過半数ですのでそういう形でお願いいたします。</p> <p>次のページで、市民等から問合せや要望があった事業を3つ挙げていただいている。一つずつ審議できればと思うんですけども、事業②剪定枝粉碎機の無料貸出事業、これについてご意見等いかがでしょうか。</p>
可知委員		<p>意見というよりは確認なんですが、この3件に関しては市民等から問合せや要望があった事業ということなんんですけど、これはやはりお一人というよりは何件か声があったのでどうだ、というふうに考えられている3件ということでおろしいでしょうか。</p>
中島係長		<p>事業②剪定枝粉碎機の無料貸出事業につきましては複数名から頂戴をしております。事業③電気式生ごみ処理容器購入補助金につきましても複数名から頂戴をしております。事業④無料給水スポットの設置につきましても複数名から頂戴をしております。正確に何名、というところはないんですが、時期をずらして複数の方からご意見を頂戴しているというところです。</p>
山本次長		<p>補足説明になりますが、②剪定枝粉碎機の無料貸出事業ですけれども、これはごみの有料化をするときにも剪定枝をどうするんだという話もございまして、有料化説明会の中でもそういうことが有効に活用できたらいいなということについては市民の皆様方から出てきた話でございます。先ほどの委員から提案のあった事業①もそうですけれども、ごみの有料化の財源を使って行っています。ごみの有料化財源につきましては目的は当然ごみの減量というところでございますけれども、ごみの減量の目的はさらに循環型社会を形成するというところでございます。ですので、といった事業がCO<sub>2</sub>の削減であったり、ごみを単に削減するということではなくその先のところに繋がっているのかど</p>

	<p>うかというところの視点からご議論いただかないと、市民の方から意見があればそれを採用していくということになってしまいますと、そもそも目的自体が変わっていくこともあります。市民の方からすれば補助制度があればいいという話は当然ありますけれども、その一方で、それぞれの事業がごみの減量であったり CO<sub>2</sub> 削減に繋がっているのかどうかということを頭の横に置いていただきましてご議論いただけたらと思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思います。</p>
会長	<p>事業②は事業①と非常に関連があって、事業①の検討の中で事業②も検討していただくということも、方向性としてはあるとは思います。</p>
中川委員	<p>時間がないということで話が切られてしましますので、事業②で聞きたいことがあるんですけど後で少し詳しい内容を教えてください。今は結構です。</p>
岩木委員	<p>会長が仰いましたように、事業②については事業①の関連性でいいと思うんですけど、事業③、事業④について全てここで入れる入れないの判断をするのがいいのかはちょっと分からないんですけども、一定整理をして、市民さんから要望があったら全て入れるというのもいかがなものかなと思います。</p>
会長	<p>事業の推薦というか、やってはどうですかということを審議会としては判断することになりますので後で決は採らせていただくんですが、その判断を委員の皆さんにしていただくにあたっての質疑応答ということで、事業③事業④も含めていかがでしょうか。事業③については、昔やっていたものを今はやらないでいるというこれまでの経緯の中で、こういうのをやってほしいという意見が出ている状況です。</p>
可知委員	<p>イメージがあれなので分かれば教えていただきたいんですけども、事業④の無料給水スポットなんですが、これに関してはいわゆる水道の蛇口ではなくて、商業施設にあるような購入したボトルに綺麗な水が採れるようなものを、例えば市役所の中に作ってそれを利用していただく、みたいなイメージで合っていますか。</p>
中島係長	<p>はい、そのようなイメージです。そのもとの水が水道水だというところです。</p>
中尾委員	<p>事業④の無料給水スポットなんんですけど、感情的にはもったいなさすぎるなと。工夫すれば蛇口でぱっと入れたらそれでいいんじゃないかなと思ってしまうんですけど、これを提案された市民の方がどれだけ真剣に考えて提案していただいたかっていう裏付け資料が少なすぎると思うんですよね。それで、あと個人的に付け加えるとしたら、環境から逸れるかも分らないけども、来るべき激甚化・頻発化する災害、水が出なくなったりしたときに備えて、どこかの井戸を</p>

	<p>災害用天然水ですよと無料給水スポットにするんであれば、そういう付加価値があると思うんです。事業④に関しましてはその辺のところも、継続審議として次年度に送るかどうかということに関しましても、この内容ではちょっと判断付きかねるというのが正直なところでございます。</p>
須内委員	<p>事業③なんですけども、生ごみの処理でニオイとあるんですが、環境まつりのときもコンポストを使っている人から言われたんですけども、活性炭とか炭を碎いたものを混ぜるとニオイはかなり減少するんです。脱臭脱湿剤というやつが冷蔵庫によく入ってますよね、あれ活性炭ですけど、あれの応用です。これは私が昔やったときは、備長炭を5本くらい金槌で割ってコンポストの中に入れたんですけども、ニオイなんかほとんど出てこないですね。それとあと付け加えますと、ミミズを入れますとミミズの糞がコンポスト材の促進になりますので、そういう工夫をされたらいいんじゃないかなと思います。難しいことをやらなくてもポリバケツでできますんで、そういうのはどうかなと思ったんですけども。それを私、環境まつりのときに申し上げたら中におられた人は、そうですかって言っていました。</p> <p>それと事業④は、見方によっては物凄く危険なんですよね。これ、毒入れられたらどうするんですか。最近流行ってますよね、注射器で入れたりね。そういう可能性があるんで、かなり慎重に扱わないと殺人になりますから、だからそれがちょっと気になったところです。</p>
中川委員	<p>事業④ですが、災害用について今言って、とは思ってなかったんで何も言わなかったんですけど、東京の方ですか、災害用に井戸を家庭で作ってというような形で非常時に備えている、非常用の井戸が増えてきているという話を聞きます。そういうのも含めてあればそういうことで考えた方がある意味いいのかなとは思いますけど、その補助を出すとかね。そうじやなしにぽんとやつたら、今度は今さっきも出たように毒を入れられたらと。まあ、そう言や何もできないということになるかと思いますけど。どうなんですか、災害とか非常用ということも含めて検討ということでいいんでしょうか。</p>
中島係長	<p>今回の提案は水道水をもとにしているというところで、大規模災害で水道自体が被災をしてしまうと災害時の機能というのはそれほど高くはないかなと思います。あくまでも有料化財源を活用した事業ということで提案をしております。昨年度の審議会において有料化財源についてはごみの減量化と再資源化に繋がることに活用していくこうという大原則を確認をいただいておりますので、今回につきましてはその災害対応というところに主眼を置いての提案ということではございません。あくまでも、ペットボトルの利用を減らしてごみを減らすというところと、遠方からペットボトルに入った飲料を輸送することによるCO<sub>2</sub>を削減していくこうという趣旨の提案でございます。</p>

	中川委員	そういうことですよね。その確認だけしたかったので。
	須内委員	ペットボトルなんんですけど、これ資源として回収できるんですよね。最近のニュースでは、廃ペットボトルを粉碎してそこから高機能な繊維を作るという工場を計画していました。だから、きちんと回収していれば資源として利用できるんです。大体今9割くらいですかね、回収されているのは。1割くらいは廃プラとして出ているみたいですけども。そういうことなんで、ペットボトルが流通しているからこれじゃなくて、逆にきちんと回収して資源として利用していくということを考えた方が私はいいんじゃないかなと思います。私もペットボトルの蓋も取ってシールも全部剥して綺麗にして、透明の形で全部排出しております。
	中岡委員	今提案されていることは、今回のこの5件を市にアイデアとして提案していくかということになっていると思うので、ちょっと議論がずれていると思います。岩木委員が仰られたように、事業①事業②についてはやっていかなければならないのかなというところも思いますし、事業③事業④に関しても、やっぱりこれだけの資料でどうするかということはここでは難しいと思います。事業⑤で、事務局の方から専任のカウンセラーの方を入れてそういう検討をしていくと仰っておられますので、そういうところでいい提案を出していただくということが一番いいのかなと私自身は思います。時間ももう少なくなっていますので、どういう形でということを締めていただければ助かると思います。
	会長	事業⑤については必ずしも十分に議論できていないところもございますが、多くの方に発言いただきましたので、事業②～④については決を採らせていただければと思います。
	山本次長	ご議論いただきまして、今この場で決を採っていくという話でございますけれども、もう少し検討させていただけたらなということで事務局でも思っております。その中で、今の話の中におきましては剪定枝でありますとか草を刈ったごみ、こういったところの堆肥化については一度検討してはどうかというところでございますので、事務局としてたたき台になり得るものを探してもらえたたらと思っております。ただ、事業②剪定枝粉碎機の無料貸出事業、これにつきましては、事業①事業②を大々的に制度化するかどうかという議論もありますけれども、一度モデル的にやってみるのも必要かと思っておりますので、そういうことのご理解と、そういう使い道についてもご了解いただけたらと思っております。事業③事業④につきましては、私の方からも補足説明をさせていただいたこともあるのかも分かりませんけれども、必要かどうかにつきましては、疑わしいと言っては語弊がありますけれども、本当に有料化財源を使ってやっていくのがいいのかどうかということの疑問をいただいている声も多くございます。先ほど中岡委員から仰っていただきましたように、事業⑤の方

	で、事業③事業④については次年度以降も含めて少し検討させてもらった上で、また審議の中で最終的にどうするのかというご議論いただけたらということで、今の委員の皆様方のご議論を聞いていますとそういった感想を持っているんですけども、一つひとつどうするのかというよりはそういったことによりあえず進めさせていただくというご了解をいただければと思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思います。
会長	私の理解としては、やるなら予算化しないといけないので、そのためには今日が最後の審議会だったら今日決めなきやなきやいけないですよね。なので、継続検討はそれでいいんですけども、特に今のご提案の話では大まかに今の議論の感じかなと私も思っております。事業⑤については必ずしもちゃんと議論していないですが、来年度予算化するんであればここでやるというふうに審議会として提案できるようにしないといけないかと思います。事業⑤についてはいかがでしょうか。
須内委員	これ、複数名じゃだめなんですかね。1人だと自分の思いが入っちゃうんで、最低でも2名くらいいるんじゃないかなという気がしますけれども。
中岡委員	市の職員の方もおられて仕事をされますので、プロの方の意見を聞いて、一緒に判断されるということですね。
会長	最初ということもありますので、いきなり2名でスタートするよりは、これは週3日程度ということでご提案いただいているから、ちょっとずつやっていく感じのほうがいいかなとは思います。事業⑤について、反対のご意見はありますか。
岩木委員	事業⑤については、どういう形で進められるかは事務局が決められたらしいので、どんなプロの方が来られるかは分かりませんけれども、初年度で複数というのは予算化も厳しいと思いますので、次年度は1人で、次またよかつたら増やしていくという進め方の方がより具体性があるのかなと思います。
中尾委員	事業⑤に関しては私は賛成しております。初年度でありますので、1名でスタートしたらいいと思います。それで、非常勤の職員ということで環境カウンセラー等の実践経験云々と書いてありますけど、こういう方っていうのはやはり環境分野での市民活動の経験を持っている市民から選出するような形を考えていただければ一番理想的じゃないかと思います。
会長	先ほど事務局からご説明いただいたまとめが概ねのまとめかなと思います。事業②は、来年度事業化するかどうかを判断した方がいいですね。事業③事業④は比較的否定的な意見が多かったかと思うんですけども、来年度からやると

	<p>山本次長</p> <p>いうよりは再来年度に向けて継続検討、事業⑤については来年度から予算化してはどうかというのが概ねのご意見だったかと思います。</p>
会長	<p>事業②につきましては、できましたら次年度モデル的にさせていただきまして、それが定着するかどうかも含めまして検討させていただけたらなと思っておりますので、できましたら予算化をして、事業としての成立性も含めた形でモデル的に進めさせていただけたらと思っております。</p> <p>というのが、事務局からの提案です。経費としても 15 万円とありますけれども、これについて賛同いただける方、挙手をお願いいたします。[挙手確認] では、進めていく方向でご提案させていただければと思います。</p> <p>あと、事業⑤についても賛同いただける方、挙手をお願いいたします。[挙手確認]</p> <p>ありがとうございます。中尾委員からご指摘があったように、経験豊富な方を採用いただければと思います。</p> <p>どうもありがとうございました。事務局の方から、その他、何かありますでしょうか。</p>
中島係長	事務局説明省略（来年度の審議会について）
会長	今のご説明について、ご質問等ありますでしょうか。では、最後に市民部長からお願いいいたします。
滋井部長	〈部長挨拶〉
その他 特記事項	